



コミュニティわかつき

9月の活動報告

若槻地区区民大運動会

9月5日(日)公民館部会主催により、若槻小学校で第59回区民大運動会が開催されました。

晴天のなか22種目の競技を行い、地区対抗戦では熱戦を繰り広げました。

地区対抗戦の成績は、優勝 稲田区、準優勝 徳間区、3位 檀田区の結果となりました。

また、今年は競技開始前に、健康部会で推進しているコミわか体操を全員で行ったほか、新たな競技として住民自治協議会の各部を対抗とした「仲良しストロー」を試みました。



来入児から高齢者が参加しての玉入れ

若槻地区交通安全・防犯推進大会



巧妙な手口による振り込め詐欺の寸劇

9月11日(土)交通安全・防犯推進大会がコミュニティセンターで開催され、約170人の参加がありました。

長野中央警察署柳澤将司課長から交通安全講話、唐澤栄二課長から防犯講話をいただいたほか、長野県交通安全支援センター指導員による寸劇、長水防犯協会防犯女性部による振り込め詐欺の寸劇を行いました。

今年の交通事故発生状況は、長野県内・長野中央署管内ともに、人身事故発生件数は減少しているものの死者数は増えています。また、多様化・巧妙化していく振り込め詐欺も多発しています。

最後に、この推進大会を契機に心を新たに、地域ぐるみで交通事故防止や振り込め詐欺など防犯に努め、また子どもや高齢者等を思いやりの心を持って守ることをアピールし大会を閉じました。

人権役員研修会

9月21日(火)若槻コミュニティセンター大会議室で人権教育部会主催の研修会が実施され、51名の参加がありました。研修のテーマは「部落の歴史」(中世～江戸・明治・現代)と差別の源流から現代の差別。

明治4年(1871年)8月 明治政府は解放令を発し、制度としての身分を廃止した。そして約100年後の1969年「同和対策事業特別措置法」を施行し、長年の取り組みにより 部落の生活環境、社会福祉、産業、教育なども改善され、周辺地域との格差も縮小してきた。

しかし、人々の差別心は未だに変わっていない。又自分達が差別していても「それが差別だ」「差別している」ということにも気づかない。今でも部落出身の人々に差別的な内容のハガキが届けられているという現実。この差別意識がどこから来たのか、私たち自身の意識を問い直し、そして部落差別をはじめとする様々な人権問題に立ち向かう力が大切だと感じる有意義な研修会でした。